

桑野小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「ユニバーサルデザインの視点を活かした学習規律の定着と分かりやすい授業の構築」
- ②「各学年の発達段階に応じた主体的・対話的な言語活動の充実」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
宮本 裕美	校長 長頭 修 校務主任 藤原 雅子 特別支援教育コーディネーター 吉本 憲司 司 博子 森 久保 郁子 宮本 敏美 久保 文香

校長 吉本 憲司 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた学習課題にはまじめに取り組むことができ、漢字の読み書きや基本的な計算については、70～80%程度の定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②理解・使用できる語彙を増やし、内容や要旨をとらえながら読んだり、目的や意図に応じて書いたりできる。	①各学級の80%以上の児童が、単元テストにおいて、正答率を80%以上にする。 ②大事なことを的確に聞く、読む、考えたことや伝えたいことを的確に話す、書くことができる児童を各学級で90%以上にする。			
課題 学習の積み重ねが難しく、知識・技能の定着が困難な児童がいる。語彙数が少なく読解能力や文章表現力が弱い。	①ユニバーサルデザインの視点を活かした指示・発問の出し方や活動方法、板書の工夫を図る。 ②子どもの実態に即した課題解決的な学習を取り入れ、目的や意図に応じて必要な情報をとらえながら読んだり書いたりする活動を充実させる。	①目標と活動、発問、子どもの言語活動に整合性があるかに焦点を絞り、研修をすすめ、改善点を明確にする。 ②各学年の発達段階に応じた教材を活用して、視写の学習を計画的に実施する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学級の中だけでなく、全校朝会や様々な集会等においても、自分の考えを最後まではっきりと伝えることができる児童が多い。	各教科、学級活動、総合的な学習の時間において、課題を明確にし、目的に応じて必要な情報を収集・整理・分析し、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意」と答える児童の割合を80%以上にする。			
課題 自分の考えの基となる情報を収集したり、整理・分析したりする力が弱い。自分の考えの根拠や理由を明確にして、筋道を立てて文章で表現することに課題がある。	①課題解決的な学習・探究学習を積極的に取り入れる。 ②発達段階に応じた主体的・対話的な言語活動の指導を充実させ、ペア学習・小集団学習を積極的に取り入れる。	育てたい力を明確にして、生活科・総合的な学習・生活単元学習の体験・交流学习を中心に各教科・領域の教育内容の関連を明確にし、各教科等の知識・技能が積極的に活用されるカリキュラムデザインを作成し実践する。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた学習課題や家庭学習にまじめに取り組む。ほぼ100%の児童が課題の提出ができています。	①学習規律を確立し、スムーズに授業が始められる。 ②課題を自分事として捉え、見通しをもって粘り強く取り組むことができる。 ③学校や家庭で、進んで読書をする習慣が身に付いている。	①学習規律が身についているという児童の割合を80%以上にする。 ③学校図書館からの図書貸出数が年間30冊以上の児童が全体の80%以上にする。			
課題 学習規律が十分に身につけていない児童がいる。自ら課題を見つけ主体的に学習に取り組むことが苦手である。読書の習慣が少しずつ身に付いてきているが、まだ十分とは言えない。	①学習規律を整え、授業において、児童が主体的に課題解決・探究することができる場を設定する。 ②学校や学級における生活上の課題を見つけ、話し合い、解決していく学級活動を推進する。	①学校全体で共通したものを教職員で設定し、実践する。 ②特別活動年間指導計画を元に、話し合いの活動を推進する。 ③週末読書を推進する。		評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

